

社会教育の推進に係る京田辺市と同志社との連携について【ご提案】（案）

京田辺市社会教育委員会議

## はじめに

同志社大学と同志社女子大学（以下「同志社」といいます。）は、京田辺市に昭和61年（1986年）に開校されました。その後、平成17年（2005年）1月に京田辺市と同志社は相互に発展していくために「連携協力に関する協定」を締結しました。

協定の締結以降、教育、文化、福祉、地域産業、まちづくり等の分野で同志社と京田辺市は相互に協力し、地域社会の発展と人材育成に寄与することを目的とし、様々な取組を行っています。

主な取組として、京たなべ・同志社ヒューマンカレッジ・K D S C（京たなべ・同志社スポーツクラブ）・同志社大学サイエンスアカデミーの実施があります。

また、同志社クローバー祭については、平成17年（2005年）から開催されていますが、学生だけでなく地域住民も参加できるお祭りとして定着しました。

社会教育委員会議では、京田辺市の今後を見据えた上で展開することが望ましい社会教育についての方向性について検討していますが、その中で社会教育の立場から京田辺市と同志社とのより深い連携について提案をします。

## 1 京田辺市の社会教育の現状

京田辺市では、行政及び地域が主体となり社会教育に取り組んでいますが、現在次の観点において、問題点が考えられます。

### (1) 地域住民の学習意欲

京田辺市では、京たなべ・同志社ヒューマンカレッジを始めとし、中央公民館、住民センター等で各種講座を開催しています。

そのほかにも、市の各部署が講座等の開催をしていますが、参加者が低迷しています。

### (2) 地域住民同士のつながり

地域では、夏祭り、運動会、清掃作業等の様々な行事が行われていますが、子育て世代を始めとする現役世代の参加は年々減少しています。

### (3) 子ども達の体験活動

小学校では、田植え等の農作業やとんど等の地域の伝統行事を地域住民の協力を得ながら実施しています。また、放課後子ども教室等の地域住民が参加する事業を実施していますが、地域のボランティアが不足しています。

## 2 今後展開することが望ましい社会教育

社会教育委員会議では、京田辺市が目指す社会教育とその実現方法についての必要な取組を3つに分類して検討しています。

### (1) 地域と同志社との連携

地域住民と同志社の学生又は先生とのつながりを強化する方法の検討

### (2) コーディネーターの発掘

地域と学校、地域住民同士をつなぐコーディネーターとなる人材を発掘し、育てる方法についての検討

### (3) 地域住民同士のつながり強化

地域コミュニティに参加する意識の低い人を取り込む方法や、地域コミュニティに参加しない人を取り込む方法の検討

### 3 同志社への提案

京たなべ・同志社ヒューマンカレッジ、K D S C、同志社大学サイエンスアカデミー、同志社クローバー祭の地域開放等、これまで連携してきた事業について、今後も継続して実施することをお願いしたい。

また、社会教育委員会議で協議している、京田辺市で今後展開することが望ましい同志社との連携強化について提案したい。

#### (1) 地域に根差した大学へ

リカレント教育の場としての大学の地域への開放及び地域に開かれた大学への取組を推進していくことが望ましい。

地域住民に大学キャンパスを開放していただき、地域住民の学びの場となるような仕組みづくりを検討していただきたい。

#### (2) 学生の地域参画の推進

京田辺市にある同志社に通って良かったと思えるよう、学生と地域住民並びに幼稚園、小学校及び中学校の児童及び生徒との交流を京田辺市と同志社が一体となって推進していくことが望ましい。

##### ① カリキュラム内での協力

学生が地域の幼稚園、小学校及び中学校で出前講座を行うカリキュラムや、子ども達の指導者となれる仕組みについて検討していただきたい。

また、先生に地域を研究対象として活用していただけるようお知らせいただき、学生が京田辺市に愛着が持てるような仕組みづくりを検討していただきたい。

##### ② 学生の参画

地域行事や文化イベントに学生が参加できるような参加学生に対するインセンティブ等の仕組みづくりを検討していただきたい。

おわりに

学生が地域で学び、地域住民と交流し、課題解決を図る活動をすることで社会経験を積むことは、その後の人生の価値観や視野視点に大きな影響を与えます。学生が直接地域住民と触れ合い、課題を設定し、そこから対策を生み出し実践する等、単発のボランティア活動では得られない社会活動を行うことで、社会活動マインドの醸成に繋がれば良いと考えます。

京田辺市と同志社とが、継続的に学生と地域が関わる機会を提供していくことで、学生たちが大学時代を過ごした京田辺市を生涯故郷のように感じてもらえれば光栄です。